

東京研修 1 日目の午前中、4 人の方々の話を聞きました。1 人目は青木庵さんでした。青木さんには将来の具体的な話や自分の体験から私たちがどう生活していくべきかを話してくださいました。

まず、将来起こりうることとしてグローバル化、テクノロジーの発達、少子高齢化の 3 つが挙げられると言いました。特にテクノロジーの発達に関して言えば、今ある仕事は将来にないかもしれないということだそうです。私はこれを知って驚きましたし、それでは、今将来の夢を持つことは無駄なのではないかと思い、青木さんに尋ねました。すると青木さんは今高校生の私たちがしておくべきことの 3 つを教えてくださいました。それは、夢中になること、実体験をすること、物事の理由を考えることだそうです。だから夢を持つことが夢中になって追いかけることと同じならばそれでいいと言ってくれました。しかし私は今夢中になって頑張っていることは何かと聞かれて自信を持って答えるものがないことに気付きました。ただなんとなく今を生活している気がしました。勉強でもいいし、部活でもいい、将来に直接関係のなさそうなことでもいいから私は夢中になって取り組むものを見つけたいと感じました。そうすれば、感動を得ることができるだろうし、自分自身を深く見つめなおすこともできると思います。そしてこれが青木さんの意図していたことではないかと考えます。夢中になって取り組んでいくことで、人間として大きく成長できると思いますし、大人の自分への第一歩だとも思いました。

その後は吉田文一さんのお話を聞きました。吉田さんは青木さんとは違って、具体的ではなく、もっと大きく世界をとらえた視点から、話してくださいました。横にアジアやヨーロッパといった地域をとり、縦に 2000 年の間隔で考えた時間をとった座標軸を基準にして考えろ、ということですが、私は始めその意味がわかりませんでした。吉田さんによれば、これは今日本で問題になっている景気の問題などで考えられるそうで、日本の 2000 年という歴史から考えれば景気の問題なんてなんども起こっていて、その都度どうにかして乗り越えてきたから、きっと今回も乗り越えられるはず、ということだそうです。それが自信につながるといいます。だから景気が悪いとただ嘆くのではなく、きっと大丈夫だという自信を持った上で考えれば、より冷静な判断ができるのではないかと、ということです。私はこれを聞いて納得させられました。自分自身何か問題に直面した時、メンタルが弱くすぐ諦めてしまったり、やる気をなくしてしまうことがよくありました。そのような時いつも自分は小さなミスばかりを気にして、視界が狭くなっていたのだとわかりました。私はこれからどんな問題に直面した時でも、物事を小さく考えずに、大きく見て、乗り越えていきたいと思いました。この力は将来私が社会に出て、社会の中で生きていく上でもとても大切なことだと思います。

その後の前川美湖さん、大久保郁子さんはどちらも、グローバルな話をしてくださいました。私は世界で活躍する前川さん、大久保さんは英語がペラペラで、コミュニケーション力も高い方と思っていました。そして、やはりそれが世界で活躍するためには必要なことだと思っていました。しかしそのことについて尋ねると、それよりもっと大事なことがある、と言いました。それは気持ちだそうです。難民の人々であったら、そのひとたちを助けたいという気持ちだけが大切なんだと話してくださいました。私は世界で活躍するためには、様々な壁があると感じていましたが、話を聞いて壁がなくなった気がして、身近に感じられました。

どの方からも貴重な話を聞け、これからの高校生活や将来に活かせることをたくさん知ることができて、実りのある経験になりました。

2日目は1日中東京大学のオープンキャンパスに参加しました。東大に着いたらまず最初に理学部の棟へ行きました。そこで東大の教授による講義を受けました。講義のテーマは「最高エネルギー加速器で解き明かす素粒子、宇宙の謎」でした。テーマだけでも難しそうで、構えていたのですが、わかりやすく説明してくれて内容がよくわかりました。私は研究内容と聞くとすごく難しそうだなど感じ、自分には分かるはずないなど思っていました。大学に入ってもこんなこと理解できるだろうか、と根拠もなく自信をなくしていました。しかし講義を受けて、自分の考えが間違っていることに気づきました。そして研究という言葉が自分の身近に感じられるようになりましたし、研究をしてみたいという気持ちも生まれました。その後理学部の棟を離れて工学部の本部説明会に参加しました。この工学部の本部説明会を受ける前までは私は工学部のことをあまり知りませんでした。なぜなら私は一応理学部を志望しているからです。しかし説明会に参加して工学部についてや、工学部と理学部の違いをたくさん知ることができ、将来どちらに進もうかいい意味で迷うことになりました。また、工学部もたくさんの分野があり、理学部とつながっているもの、医学とつながっているものがあると知りました。工学部のことだけでなく、説明をしてくださった教授の人生体験からも学ぶことが多くありました。例えば教授は始め現在の仕事とは全く関係のないことを目指していて、その後断念したことです。しかし断念して教授という仕事をするようになってから、気づいたことがあるそうです。それは、始め目指していたことに一生懸命取り組んだことで得たものが後になって意外に役立つことが多いということです。これは、1日目に話を伺った青木さんと同じ考えでした。私は聞いていて、とても納得できましたし、より一層夢中になって、一生懸命取り組むことの大切さを感じました。また、今まで自分が考えていたことと全く逆の考え方をしたものもありました。それは競合しない友達を持つこと、です。

私は友達であり、ライバルである、というような関係こそが、自分の成長につながると考えていました。しかし教授によるとそのような友達こそ将来大切な存在になるといいます。競合しない友達とはつまり自分と分野が違うということです。そうした異分野の人たちは将来学問の連携や会社の取引に役立つのです。私にはまだ遠いような感じがしましたが、今やれることですし、友達をたくさん作ることは大切なことなので、これからの生活で心がけていきたいと思いました。その後また理学部の棟に戻って、展示を見に行きました。特に印象に残ってるのが、宇宙天文学科です。なぜなら私たちの班は企業大学訪問で第一希望でアポイントメントをとった教授の戸谷教授の研究内容があったからです。班の第一希望というより、自分が提案したので自分の第一希望でした。教授はいなかったのですが、生徒とより深い話までできて、貴重な経験になりました。

東大見学では、実際の大学生の様子や研究内容などにふれることで大学が身近に感じられることができましたし、将来自分が大学生になった時のことを想像できて、自分の将来への自信や展望を持つことができる良いきっかけになったと感じます。